

担い手育成特定資産事業 活用事例紹介 松館 怜さん(宮古市)

取材担当 宮古農業改良普及センター 鈴木 元

宮古市で就農した松館玲さんをご紹介します。

就農のきっかけは、松館さんが起業を考え情報を集めていた頃、農業振興への支援が手厚いと感じたこと、また、知人の農作業を手伝った時の達成感が心に残っていたことでした。

管内での就農前研修を経て、令和4年1月にきゅうりを基幹品目として就農しました。

現在は、ハウスきゅうり 14a、露地きゅうり 7a、ハウスピーマン 2.5a、その他野菜 20a の品目と規模で栽培しています。

「省力的に働くこと」を常に意識して農業経営をされており、新規就農スタートアップ支援事業を活用して導入した「管理機・マルチャー」と「自走式キャリー動噴」は、きゅうり栽培での計画的な管理作業の実施や作業労働力の不足を補うことに欠かせない装備で、大いに役に立っているとのことでした。

将来の目標として、「年間を通じて作物の販売ができるような経営スタイルを目指したい。」と語ります。そのために、基本的な栽培知識の習得に努めるとともに、施設栽培の拡大を図っていききたいとのことでした。根気強さと真面目さが持ち前の松館さん。目標の達成に向けて、今後ますますの活躍が期待されます。



笑顔でインタビューに応える松館さん



きゅうりの収穫作業に勤しむ